

前記ノ如キ勞働者側ノ策動アル爲工場、本社並ニ本社幹部ノ邸宅等夫々所轄署ニ於テ嚴重視察警戒ヲ加ヘ、アルガ三月三十一日砂町工場入口ノ硝子戸ニ枚ヲ破壊シ喧噪シタル件（四月一日附勞務秘第六六〇號）ニ關シ其ノ後会社側ヨリ器物毀棄ノ罪名ノ下ニ告訴狀ヲ所轄警署ニ提出シ來レルニ依リ同署ニ於テハ職工萩原長吉當廿二年及同小山秀一當廿四年ヲ被疑者トシテ取調中ノ屬一件記録ノ完成ヲ待テ  
検事局ニ送致ノ予定  
右及申（通）報候也

（別記）

賢明なる全市町民に訴ふ！！

今回吾々岩淵電氣工業株式會社砂町工場従業員は本本意分らざる事情を爲し会社と戦ふことになりし事、否、賣られぬ喧嘩を致し方なく奮起せられたりありませぬが、何れにしても諸氏に御迷惑を掛ける事を遺憾と致す者であり、此等真相を訴へて諸氏の正當なる御批判を仰がんと致す者でありませぬ。

四十年に渉る従業員 愚忍

私共従業員は未だ岩淵工場木挽所に在る個人工場之時から今日頃迄大猶全株の従業員として然し嘗々とて働きたる、大会社に在る一切の力と爲つて來たりありませぬが其の苦勞働條件は省恵を極め現在平均賃金壹圓八拾錢四十年も勤續して居るも不驚しなれども其の苦勞働條件はの外でありませぬ、生活状態は言はずに量り知れる事と思ひます、然るに今日迄一回も要求がましい事をした事がありませぬ如何に隱忍したか表面出來ること、思ひます。

會社側は如何

然らば会社はどうであるかと言ふに初め明治二十三年岩淵茂右衛門氏が通信省附屬工場の職工から極めて些かな工場を開いたりありませぬ、資本家等は決してなかつた事ありませぬ、それが我々争議團員中の古参者、血と汗と油とを搾つて段々増大され相當の工場となり、たゞ、茂右衛門氏死亡するや大正元年会社組織を變更し益々酷使と搾取を續け其の金に力をつけて増資の形式となり、出資金は一文もなく今日の大会社となりたるものにて實に欺瞞と搾取の状態殿と云ふべき有様でありませぬ。